

## 国立遺伝学研究所運営会議（第149回）議事要旨

日 時 2026年2月17日(火) 13:00 ～ 15:06

場 所 Web 会議 (Zoom)

出 席 (所外) 伊藤委員、上村委員 (副議長)、大杉委員、清水委員、高橋(智)委員、  
高橋(淑)委員、武田委員、徳永委員、中川委員  
(所内) 黒川委員、平田委員、北野委員 (議長)、鐘巻委員、中村委員、有田委員、  
宮城島委員、前島委員、岩里委員、澤委員

陪 席 近藤所長、工樂人事委員会委員長 (第8条に基づく出席)

事務局 管理部長、総務企画課長、財務課長、その他関係職員

会議に先立ち、事務局から、会議の成立要件の定足数 (過半数の出席) を満たしている旨の報告があった。

(所長挨拶)

所長から、挨拶があった。

### 議 事

#### 審議事項

##### (1) 国立遺伝学研究所名誉教授候補者の選考について

宮城島委員から、国立遺伝学研究所名誉教授候補者の選考について、資料1に基づき、候補者の経歴及び研究業績等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

##### (2) 研究教育職員の人事について

###### ●統合研究コア特任准教授の選考について

人事委員会委員長である北野委員から、統合研究コア特任准教授の選考について、資料2-1に基づき、人事委員会において適任者として選考した候補者2名の選考の経緯及び選考結果等について説明があった。また、運営会議申し合わせ「重要案件の採決方法について」に基づき、投票を行った結果、候補者2名がそれぞれ投票総数の過半数の可票を得たことから、原案どおり承認した。

###### ●遺伝形質研究系植物細胞遺伝研究室教員 (助教) の選考について

人事委員会委員長である工樂教授から、遺伝形質研究系植物細胞遺伝研究室教員の選考について、資料2-2に基づき、候補者の選考の経緯及び選考結果等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

###### ●遺伝メカニズム研究系物理細胞生物学研究室教員 (助教) の選考について

人事委員会委員長である澤委員から、遺伝メカニズム研究系物理細胞生物学研究室教員の選考について、資料2-3に基づき、候補者の選考の経緯及び選考結果等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

###### ●ゲノム・進化研究系生態遺伝学研究室助教の再任について

再任評価委員会委員長である前島委員から、ゲノム・進化研究系生態遺伝学研究室助教の再任について、資料2-4に基づき、再任審査の経緯及び再任審査の結果について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

●遺伝メカニズム研究系教員（教授）の採用方針（案）について

所長から、遺伝メカニズム研究系教員の採用方針（案）について、資料2-5に基づき、教員人事を行う必要性及び任用の条件等について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(3) 特任教授の称号付与について

所長から、特任教授の称号付与について、資料3に基づき、候補者の略歴、研究業績及び称号付与を行う必要性について説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(4) 2026年度客員教員の選考及び称号付与について

所長から、2026年度客員教員の選考及び称号付与について、資料4に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

(5) 情報・システム研究機構国立遺伝学研究所組織改編について

所長から、情報・システム研究機構国立遺伝学研究所組織改編について、資料5に基づき説明があり、審議の結果、原案どおり承認した。

報告事項

(1) 研究教育職員の人事異動について

所長から、研究教育職員の人事異動について、資料6に基づき報告があった。

(2) 令和7年度補正予算及び令和8年度予算（案）の主な事項について

黒川委員から、令和7年度補正予算及び令和8年度予算（案）の主な事項について、資料7に基づき、報告があった。

(3) 2026年度国立遺伝学研究所共同研究・研究会「NIG-JOINT」の採択について

共同利用委員会委員長である澤委員から、2026年度国立遺伝学研究所共同研究・研究会「NIG-JOINT」の採択について、資料8に基づき報告があった。

(4) 国際交流協定の締結について

所長から、国際交流協定の締結について、資料9に基づき、報告があった。

(5) 第28回生物遺伝資源委員会について

所長及び黒川委員から、第28回生物遺伝資源委員会について、資料10に基づき、報告があった。

(6) 第31回事業委員会について

事業委員会委員長である前島委員から、第31回事業委員会について、資料11に基づき、報告があった。

その他（フリーディスカッション）

所長から、生命情報・DDBJセンターの現状と組織改編後に目指すべき組織像について、現在は研究所運営予算から同センターの予算を措置しているが、NCBIやEBIと肩を並べるため、予算規模及び予算措置の両面から独立組織として運営可能な体制を志向したい旨の説明があり、対応方策について意見交換があった。

以 上